国民の森林・国有林
林野庁
中部森林管理局
〒380-8575長野市大字栗田715-5
☎050-3160-6513
http://rinya.maff.go.jp/chubu/

広報 中部の森林（もり）林

長野県上高井郡高山村毛無峠から望む日の出

主な項目

○ 桂川局長年頭所感 …… P2
○ 各地からのたより …… P4
○ シリーズ「森林官からの便り」 …… P6
○ 2015年 主な出来事 …… P7
○ シリーズ「ご当地自慢」 …… P10

年頭所感

国有林に求められること

林野庁中部森林管理局長　桂川　裕樹

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

さて、今年は国有林野事業が一般会計化されて四年目の年となります。

これまでの三年間、中部森林管理局として「公益重視の管理経営の一層の推進」、「森林・林業再生への貢献」、「山村地域の振興と森林の総合利用」の三つの柱の下、例えば、治山の災害対策についての住民への情報提供、自治体と連携したシカ対策、コンテナ苗の普及、伐採・造林の一貫作業システムの導入、素材生産における生産性向上プログラムの実践、システム販売による木材安定供給、森林・林業の担い手育成への支援、民有林との連携による路網の連結や協調出荷、事業予定量情報の提供など、各般にわたる多様な取組を進めてきました。

その中には、林野庁の保護林制度全体の見直しにもつながった、温帯性針葉樹林の保存・復元に向けた「木曽悠久の森」の取組や、農林水産大臣からの優良職員等表彰を受けた噴火・土石流災害への対応もありました。

いずれにしても三年は短い期間ではありません。四年目となる今年はそろそろ「どのような取組をしているのか」ということではなく「どのような成果が上がったのか」という問いかけをされる年であると覚悟しなければなりません。

一般会計の下での国有林の役割とは、その事業実行を通じて、これまで培った知見と技術とを活用して、地域の、そして日本全体の森林・林業・木材産業に係る様々な政策課題の解決に貢献していくこと、先駆けとしての役割を果たしていくことです。

現下の林野庁の最大の課題は言うまでもなく「林業・木材産業の成長産業化」、つまり成熟した人工林資源を活かしていくことにありますが、それ以外にも多くの課題があります。それらの解決のために、我々一人ひとりが、森林・林業に携わる者としての誇りを胸に、国有林のみならず民有林を含めて通用する幅広い視野をもって、それぞれの持ち場でそれぞれの仕事を通じて、いつどこでどのような貢献ができるのか、考えて、研鑽して、自ら取り組んでいかねばなりません。

真剣に、しかし深刻になることなく、明るく楽しく前向きに、ともに進んで行こうではありませんか。

結びに、皆様方の本年のご多幸とご健勝を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

今年の干支（えと）は丙申（ひのえさる）

今年の干支は申年です。干支（十二支）は九番目です。丙には（あきらか・さかん）という意味があり、横に燃え広がる性質を持ち、また、申（さる・しん）は伸びるということで、「物事が進歩発展」し、成熟に至るまでの伸びをあらわしているそうです。

また、申年生まれの方は、器用で明朗活発、好奇心旺盛で要領がよく、相手の気持ちを読みとる能力に優れているので友人にも恵まれるといわれています。

温泉を楽しむニホンザル（山ノ内町地獄谷野猿公苑）

申年生まれの有名人をあげますと、一九五六年：シンガーソングライターの桑田佳祐、一九六八年：女優の鈴木京香、一九八〇年：お笑い芸人の又吉直樹、一九九二年：プロゴルファーの松山英樹といった方々がいます。

過去に起きた申年の出来事を紹介しますと、一九五六年：日ソ国交回復、一九九二年：東海道新幹線にのぞみ登場などがありました。

今年一年が、実り多い年となりますよう願いたいものです。

豊田市の森づくりを題材に森づくりシンポジウムを開催

［名古屋事務所］十一月十七日、豊田市と東海・北陸市町村フォーラムが主催する森づくりに関するシンポジウムが豊田市能楽堂において開催されました。

このシンポジウムは、広域合併により森林面積が大幅に増加した豊田市が合併を機会に制定した「森づくり条例」、「一〇〇年の森づくり構想」による取り組みの現状を紹介するとともに森林林業を取り巻く動向などを学び、今後の森づくりへの機運の醸成を目的に開催されたものです。

会場となった能楽堂

開催に先立ち挨拶にたった太田豊田市長は「二〇〇〇年に矢作川流域を襲った恵南豪雨により上流域の森林に大きな被害が発生し、これを機会に豊田市は公益性発揮に重点をおいた施策を推進してきた。広域合併後に策定した構想は欲張りな内容であったが、取り組む必要があったと考えている。今回のシンポジウムを将来を見据えた森づくりについて考えていただく機会にしていきたい」と話がありました。

その後、元林野庁長官の加藤鐵夫氏から「森林・林業の新たな動向と市町村の森林管理」と題した基調講演が行われ、国内の森林資源が成熟化していることやCLT等の新たな木質建材の実用化・木質バイオマス発電の推進による木材需要の増大など、林業を取り巻く最近の情勢と今後の展望、地域の役割などについてわかりやすい説明がありました。

引き続いて、三菱UFJリサーチ&コンサルティングの相川研究員、森林総合研究所の石崎研究員、豊田市の原田産業部長の三名から森林政策を取り巻く環境の変化や森林行政の現状、豊田市の森づくりなどについてそれぞれの立場から報告を受けた後、パネルディスカッションに移り、豊田市が行ってきた取り組みが他の市町村でも可能なのか、森林行政に携わる人材をどう育成していくのか、山林所有者の立場、意識はどうあるべきなのか等について活発な意見が交わされました。豊田市とその近隣市町村から参加した約二〇〇名の参加者は熱心に耳を傾けていました。豊田市では、三年後に県内最大規模の製材工場の稼働が決定しています。合併を契機に森林政策の強化推進を行ってきている豊田市は、豊かな財政力だけでなく、人材育成にも注力しており、これらの取り組みが地域における山づくりの指標になると期待され、今後の取り組みが注目されるところです。

パネルディスカッション（中央：加藤元長官）

木曽悠久の森管理委員会等を開催

［計画課］中部森林管理局では、平成二十六年四月に、世界的にも希少とされる木曽地方のヒノキ等の温帯性針葉樹林の保存・復元を目指し、温帯性針葉樹林がまとまって分布するエリアをつなぐ形で「木曽悠久の森」（一六、五七九ヘクタール）を設定しています。

木曽悠久の森の区域内に新しく保護林を設定するため、木曽地域の保護林設定検討部会と木曽悠久の森管理委員会を十二月二日に、保護林管理委員会を十二月十日にそれぞれ森林管理局で開催しました。

木曽地域の保護林設定検討部会では、平成二十七年九月に改正された新たな保護林制度のもと、どのような保護林の区

第三回木曽悠久の森管理委員会

分で、どのような森林を対象として、どれぐらいの広さで設定するか、などについて意見交換が行われました。結果として、「木曽生物群集保護林（一〇、三九二ヘクタール）を設定し、温帯性針葉樹林の保護・復元を図る案が決定されました。具体的には、自然状態が十分保存された天然林を主体とし、原則として人為を加えず自然の推移に委ねる「保護林の保存地区」（三、二六六ヘクタール）の設定と、この保存地区に外部からの影響が直接及ばない緩衝地帯で、人工林は将来的に天然林への移行を図る「保護林の保全利用地区」（七、一二六ヘクタール）を設定する案です。

木曽悠久の森管理委員会では、木曽生物群集保護林の設定案を踏まえて、木曽悠久の森管理基本計画（案）を策定するための議論が行われました。この結果、木曽悠久の森区域の内にあるレクリエーションの森の積極的な活用方向、分収林や緩衝地域等の保護林として設定されない区域の森林の取り扱いなどが、管理基本計画（案）に盛り込まれることとなりました。

保護林管理委員会では、木曽地域の保護林設定検討部会の報告に基づき、木曽生物群集保護林の設定案を森林管理局長に答申することを決定したほか、潜在的自然植生へ復元させるための計画等を検討する保護林復元部会を設置することを決定しました。

なお、木曽生物群集保護林の設定案と「木曽悠久の森管理基本計画（案）」は、十二月下旬に変更する森林計画の一部として公告縦覧を始め、二月二十四日の森林計画検討会等を経て、四月一日に施行の予定としています。

小五・社会科見学で森林教室を実施

［技術普及課］十一月六日、長野県千曲市の埴生小学校五年生四クラス一一五名が、中部森林管理局を訪れました。

これは、三学期に社会科授業で森林・林業の学習をとりあげることから、基礎知識を学びたいと庁舎の見学を兼ねて指導依頼があったものです。

二クラスずつ、二回に分けて大型バスで到着した児童たちは、庁舎の展示物に興味を示しつつ大会議室に入りました。

緑の普及係長の歓迎の挨拶後、まず森林・林業のことをどれくらい知っているか「グーチョキパーアンケート」を行い、緊張を解きほぐしつつ児童たちの理解度に合わせた説明をパワーポイントで行いました。世界の森林、日本の森林、長野の森林へと徐々に身近な場所へクローズアップさせ、森林の現状と生活との係わりや果たす役割、林業の抱える課題にも触れました。高性能林業機械の映像を観ながら、「現在の林業ってかっこいいよね！」とイメージアップも図りました。

児童たちは熱心にメモを取りながら、「具体的にどうやって森を管理するのですか？」や「天然林を伐ることはあるんですか？」等鋭い質問も出ました。

大会議室内に展示した林業機械のミニチュア模型や森林官の装備を見学し、腰に下げるナタとノコギリ（二丁差し）の重さに驚く声もありました。

各クラスの滞在時間は僅か四十分程でしたが、児童たちは初めて知る盛りだくさんの内容を持ち帰ってくれました。

グーチョキパーアンケートでリラックス

林業機械の模型などを興味深く見学

各地からのたより

戸隠森林植物園冬支度
ボランティアによる作業

［北信署］今年初めての冠雪で戸隠山一帯が雪景色となった十一月二十六日、長野国有林森林整備協会北信支部と当署職員の一五名で、戸隠森林植物園内の木製遊歩道のグリーンロープ撤去作業を行いました。この作業は、二メートルを超える積雪の重みでロープが引っ張られて支柱が折れたり、春先の除雪に障害にならないよう行っているものです。

昨シーズンの冬は、十二月初旬から例年にない大雪に見舞われ、木製遊歩道の上には三メートル近い雪が覆い被さりその重み

グリーンロープ撤去作業

で一部が損壊し、通行不能となったことから、周遊出来ずに多くの来園者にご迷惑をお掛けしました。

大量の雪に覆われる湿地に設置した木製遊歩道を維持することの難しさを痛感させられました。

今年の春先、木製遊歩道を歩いているときに、障害者と付き添いの方に出会いました。「歩道が凸凹でご迷惑かけていますが、気をつけて下さいね」と声を掛けると「いいえ私たちもこの歩道がないと、こんな自然にふれあうことが出来ないからとても感謝しています」と言っていただきました。その言葉に頬を流れる汗も心地よく感じました。

ボランティアで参加された方々も息が合っていたことから作業は順調に進み、戸隠森林植物園の閉園に向けた重要な作業は無事に終えることが出来ました。

戸隠森林植物園は、これから来年のゴールデンウィークまでの間、深い雪に閉ざされますが、奥社については一月八日までお参り出来るようです。パワースポットとしても有名で「気」を吸収したい方は戸隠神社に一度出掛けてみては如何でしょうか。

登山道ボランティア修繕作業
～金華山国有林～

[岐阜署] 当署が管理する金華山国有林は、岐阜市のシンボル的存在で多くの観光客が訪れます。

また、都市近郊にあって、ファミリー向けから上級者向けまで多くの登山道が整備されていることから、登山目的の方も多く訪れます。

登山道の整備は、地元岐阜市を中心にボランティア団体等が整備していますが、平成二十年度から毎年一回学生や企業等も参加し、ボランティアで登山道の整備をしています。

今年度は十二月十三日に「金華山サポーターズ」「十時会」等のボランティア団体を始め、地元中学生、企業、岐阜市職員、当署職員等の総勢一二〇名が集まり、分担して修繕作業を実施しました。

登山道を修繕する参加者

当日は日曜日であったことから多くの登山者があり、「ありがとうございます」「お疲れ様です」等の声をかけていただき、重い土嚢（どのう）運搬の作業等も気持ちよく終えることができました。参加していただいた皆さんありがとうございました。

ホースロギング（馬搬）で民国連携

[北信署] 十一月十六日、「アファンの森」にて、ホースロギング（馬による木材の搬出）が実施されました。

平成二十三年八月、アファンの森で行われた「国際森林年第三回国内委員会」において「アファンの森と国有林と地域が連携した新たな森づくりや、ホースロギング（馬搬）などのモデル的な取組」が提案されました。翌年三月、隣接する霊仙寺山国有林一〇三七林班を一般財団法人c・w・ニコル・アファンの森財団と「社会貢献の森」（森林・林業再生モデル林）として森林整備活動に関する協定を締結、十一月から国有林の間伐を実施し、馬搬により間伐材の搬出を行ったことが始まりです。

また、平成二十五年十一月には「馬搬技術の伝承研修」が開催され、長野県の天然記念物に指定されている木曽馬も木曽町開田高原の木曽馬保存会から馬搬に参加しました。

今年度の馬搬は、協定した国有林に隣接するアファンの森、林齢四十六年生のカラマツ林で実施されましたが、これまで国有林をフィールドとして培ってきた技術が活かされており、まさに民国連携による森林整備といえます。

馬搬を指導しているのは、岩手県遠野市「遠野馬搬振興会」の岩間敬事務局長で、平成十四年から馬搬に従事しているとのことでした。

岩間さんは、馬を復活させることが林業、農業など中山間地の衰退問題解決の糸口があると考え、森に優しい伝統的な日本の里地里山文化を継承するため、平成二十二年馬搬振興会を立ち上げて馬搬の普及に取り組んできたそうです。今は北海道、宮城、山形、福島、長野県等様々な地域で馬搬技術の指導に携わっています。岩間さんが馬搬を始めた頃は、日本でも馬方が三名しか残っていなかったようですが、現在は一〇名程に増えてきたとのことです。当日も二名の研修生が岩間さん指導の下、馬搬に挑戦しました。

カラマツの間伐材を牽引するサムライキング

馬搬を行うには、日々の訓練が必要ですが、一番重要なのは人と馬との信頼関係で、馬の個性にもよりますが最低でも三年以上はかかるそうです。

この日活躍していた馬は、外国産の馬で名前は「**サムライキング**」。十歳の雄で、体重は約一トンあり最大牽引量は体重と同じ一トンだそうです。搬出距離にもよりますが、最大一日一〇立方メートル近くは搬出できるとのことです。

馬搬した間伐材

馬搬された間伐材は、テーブルや椅子などの家具に加工され、森から生まれた家具「horse Logging Furniture」として愛好家に注目されています。

今年度アファンの森では道産子の雪丸と茶々丸の二頭が加わり練習を重ね馬搬の技を磨いているところです。

シリーズ「森林官からの便り」

[愛知所　尾張森林事務所]

首席森林官 酒向 篤憲

尾張森林事務所は、名古屋市の中心部にあり尾張流域の犬山、八曽、瀬戸国有林と西三河流域の大ヶ蔵連、本城山、百月、舟ヶ沢、金沢段戸国有林を管轄しています。

尾張森林事務所の管理する国有林には、江戸時代までは幕府直轄の天領として、その後、明治時代は御料林として管理されてきた森林が多くあります。

しかし、時代の変遷と一時期の乱伐等により大きな影響を受け、写真①のように「日本三大はげ山」と称されるに至りました。

写真②③は、昭和二十年代後半の瀬戸国有林と犬山国有林です。

戦後から一〇年もたたない建設機械も乏しい時代に国土の緑化、森林の再生が国の復興につながると信じた我々の先輩方は鍬を握り額に汗して森林の造成に取り組みました。

写真①（昭和20年代後半の瀬戸国有林）

写真②（瀬戸国有林での緑化作業）

尾張森林事務所管内の天然林にも見える多くの林分は人力により階段工を施工し、アカマツ、クロマツを植栽した人工林です。私は、事務所の本棚にあった古いアルバムからこの写真を見つけたときに、自然の営みと人の力のすばらしさ、時を経て今自分がこの山に携わっていることに人が森を受け継ぐこと、つながりの大切さを痛感しました。

世界的な地理学者として知られる志賀重昂（しげたか）は、風景がヨーロッパ中部を流れるライン川に似ているとして「日本ライン」と命名した犬山国有林を始め八曽国有林、瀬戸国有林には多くの登山者が訪れるほか「ふれあいの森」を活用しての森林施業、ボランティア活動、森林環境を学ぶ市民講座、地元小学校の森林教室にも活用されています。

また、高性能林業機械による高齢級林分での育成受光伐事業を実施し、間伐材を市場に提供し資源の有効活用も図っています。

写真③（昭和20年代後半の犬山国有林）

階段工の施工状況遠望　犬山国有林

森林教室の様子

生産事業

尾張森林事務所は森林官と森林技術員ともに五十七歳になり退職まであと数年を数えることになりました。何か褒められるような立派な仕事をしてきたわけではありませんが「先人から受け継いだ財産を有効に活用しながら後生につなぐ山作り」と「もう若くないから安全第一ね」を合い言葉に微力ながら二人で頑張っております。

人のうごき

中部森林管理局人事

十二月二十四日付

▽復職：東濃森林管理署森林整備官（森林ふれあい担当）（東濃署主任事務管理官（休職））　安江 清文

一月一日付

▽北信森林管理署森林官（木島平担当区）（北信署治山技術官）　小田切 英市

二〇一五年　主な出来事

◆1月◆

16　木曽谷（上松町）森林共同施業団地協定締結　（木曽署）

28　中部森林技術交流発表会　（～29中部局）

◆2月◆

3　森林管理署長等会議　（～4中部局）

19　中川地区民有林直轄治山事業概成式典　（伊那谷総合治山事業所）

21　木曽・王滝復興支援イベント～木曽ヒノキの郷巡り～（～22木曽署管内）

ヒノキ箸を手に記念撮影

25　中部森林管理局・森林農地整備センター中部整備局連絡会議　（中部局）

27　木曽谷（木曽町・王滝村・大桑村）森林共同施業団地協定締結　（木曽署・南木曽支署）

◆3月◆

19　平成二十六年度森林・林業社会貢献活動に対する局長感謝状贈呈式　（中部局）

20　「御柱の心をつなぐ森」協定締結　（南信署）

24　七宗町上麻生地区森林整備推進協定締結式　（岐阜署）

協定者の方々

27　木曽谷（南木曽町）森林共同施業団地協定締結　（南木曽支署）

◆4月◆

16　第一回森林管理署長等会議　（～17中部局）

17　林野庁長官管内視察　（～18北信署、南信署）

21　生産性向上スタートアップ勉強会　（中部局）

22　民有林連携担当者会議　（中部局）

23　平成二十七年度事業概要記者発表　（～24中部局）

23　戸隠森林植物園ボランティア整備　（北信署）

27　長野林政協議会・林政連絡会議　（中部局）

27　「百年の森づくりリレー」伐採式　（東濃署）

◆5月◆

12　諏訪大社下社御柱用材伐採式　（南信署）

伐倒される御用材

14　ヒノキコンテナ苗現地検討会　（岐阜署・森技セ）

16　愛知県植樹祭　（稲沢市）

22　とやま森の祭典　（入善町）

26　国有林ゴミゼロ運動　（～29各署等）

28　木曽の国有林見学会（春季）（ふれセン）
30　長野県植樹祭（大町市）
31　山中峠のミズバショウ群落の電気柵設置（飛騨署）

◆6月◆

2　カラマツ種子安定供給のための環状剥皮技術講習会（東信署）

カラマツ環状剥皮の様子

8　岐阜県・愛知県林政連絡会議（名古屋市）
10　林退会坂下支部国有林見学会（東濃署）
15　優良職員等に対する農林水産大臣賞贈呈式（中部局、19木曽署、南木曽支署）
18　第一回「木曽悠久の森」管理委員会及び現地検討会・各専門部会（～19木曽署）
18　山中山国有林と滝ヶ洞国有林ニホンジカ防護柵設置（～19飛騨署）
25　富山県林政協議会・林政連絡会議（富山市）

◆7月◆

1　木づかい推進企画展「木彫・刻字作品展」（～10／31名古屋事務所）
2　林野庁次長管内巡視（東信署）
6　北ノ俣岳登山道整備（～9飛騨署）
7　南木曽町土石流災害復旧現場説明会（南木曽支署）

地元住民に復旧現場を説明

9　国有林作業現場等見学会（東濃署）
16　国有林野等所在市町村長有志協議会（愛知所）
16　高山植物等保護対策協議会（中部局）
24　「熱田白鳥の歴史館」看板除幕式（名古屋事務所）
24　ヒノキ天然更新現地検討会（愛知所）
31　夏休み子どもふれあいデー（中部局）

子どもたちで賑わう局大会議室

◆8月◆

3　インターンシップ実施（～9／11中信署他）
6　教職員を対象とした森林・林業体験学習会（ふれセン）
17　「夏休み！木であそぼ！」達人が指導する木工教室（名古屋事務所）
19　「木曽悠久の森」の現地見学会及びワークショップ（～21木曽署他）
22　第一回下呂の森を巡るツアー（岐阜署）
24　佐久市大沢財産区「山の日制定記念分収造林」調印式（佐久市）
28　長野県と「生物多様性保全の推進に関する基本協定書」締結式（長野市）
29　第二回下呂の森を巡るツアー（岐阜署）
29　王滝・木曽支援ツアー（～30ふれセン）

◆9月◆

1　中部森林管理局総合防災訓練（中部局）
1　技術者育成研修中部ブロック研修開講（森技セ）
3　伊那市国有林見学会（南信署）
5　第三回下呂の森を巡るツアー（岐阜署）
9　ニホンジカ被害対策現地検討会（南信署）
10　国有林モニター会議現地見学（木曽署）

木曽ヒノキの説明を聞く参加者

14　雲の平植生湿原活動（～16富山署）
16　公益的機能維持推進協定締結式（北信署）
18　ミス日本みどりの女神「木曽悠久の森」を訪問（木曽署）

赤沢自然休養林にて

19　木曽悠久の森写真コンテスト表彰式（木曽町）
24　御嶽山噴火災害「濁川復旧治山工事」現場見学会（木曽署）

治山工事現場を見学する参加者

30　南木曽町林政懇談会（南木曽支署）

◆10月◆

1　第一回中部森林管理局保護林管理委員会（中部局）
2　森林ボランティア・NPO連携推進会議（～3ふれセン）
2　大桑村林政懇談会（南木曽支署）
5　諏訪大社上社御柱用材伐採式（南信署）

轟音を立てながら倒れる本宮一之御柱

6　南木曽町合同植樹祭（南木曽支署）
6　漁民の森林づくり活動（愛知所）
7　第一回木曽地方の保護林設定検討部会、第二回「木曽悠久の森」管理委員会（中部局）
8　金曜会国有林視察（南信署）
9　林野庁長官管内視察（木曽署）
9　緑のオーナー友の会現地見学会（中信署）

11　第三十九回全国育樹祭（揖斐川町）
11　森林・林業・環境機械展示実演会（～12高山市）
14　実践研修中部ブロック研修開講（森技セ）
20　木曽川流域等所在市町村長有志協議会・現地視察（東濃署）
22　三浦実験林設定五〇周年記念行事（～23木曽署）

王滝村での記念講演

26　第二回森林管理署長等会議（～27中部局）
28　国有林野管理審議会（中部局）

◆11月◆

4　ニホンジカ被害対策技術高度化実証事業（モバイルカリング）（～12南信署）

5　オーストリア森林フォーラム.in長野（長野市）
5　林野庁長官管内視察（北信署、東信署）
5　森林総合監理士連携会議（～6下呂市・中津川市）
5　木曽の国有林見学会（秋季）（ふれセン）
11　林政記者クラブ国有林視察（～12愛知所）

生産性向上プログラム事業地を視察

26　戸隠森林植物園ボランティア整備（北信署）

◆12月◆

2　第二回木曽地方の保護林設定検討部会、第三回「木曽悠久の森」管理委員会（中部局）
10　第二回保護林管理委員会（中部局）

ご当地自慢

富山県射水市編

33

富山森林管理署

◆全国豊かな海づくり大会

「第三十五回全国豊かな海づくり大会～富山大会～」が、十月二十五日に射水市を中心に天皇・皇后両陛下をお迎えして開催されました。

この大会は、全国植樹祭・国民体育大会と並び「三大行幸啓」の一つに位置付けられており、大会が終わり帰京の際には、天皇陛下から「二年後に富山で行われる植樹祭楽しみですね」のお言葉をいただきました。

海づくり大会

◆海王丸

海づくり大会のメーン会場の「海王丸パーク」には、初代「海王丸」が係留・展示されています。「海王丸」は、昭和五年二月十四日に進水し、海洋練習船として活躍すると共に、世界の人々からは「海の貴婦人」と賞賛され、愛され親しまれてきました。

海王丸

また、北アルプス立山連峰を背景に帆船海王丸と新湊大橋が並び立つ他に類を見ない雄大なロケーションと夜間のイルミネーションなどによる、ロマンティックな雰囲気がプロポーズにふさわしいデートスポットと評価され、平成二十五年一月には、海王丸パークが「恋人の聖地」に選定され「永久の愛」を誓いに来場されるカップルも多いようです。

◆海の幸

新湊漁業協同組合では、旬の味覚を味わってもらおうと、ベニズワイガニを毎年射水市の小学校六年生に、給食で一人一匹ずつ提供しています。

白エビは、世界で富山でしか漁が行われず「富山湾の白い宝石」と称されており、道の駅新湊では「白エビバーガー」として手軽に味わえます。

旬の味覚ベニズワイガニ

美味しそうな白エビバーガー

◆ダイオウイカ

平成二十六年十一月から二十七年一月にかけ、ダイオウイカ四匹が新湊漁港で水揚げされ、長さ約六、三メートル、重さ約一三〇キロのダイオウイカ一匹がスルメに加工され「新湊きっとときと市場」に展示されました。

ダイオウイカのスルメ

これとは別に加工された三匹が平成二十七年二月に開催された試食会で来場者に無料でふるまわれました。味は、えぐみや苦みが強く、食用には向かないようです。

◆アクセス方法

○海王丸パークは、北陸自動車道小杉インターから車で二十分

○道の駅新湊は、北陸自動車道小杉インターから　車で十五分

是非、海の幸を味わってみてください。